

『宮沢賢治と学ぶ宇宙と地球の科学 ①宇宙と天体』 正誤表

『宮沢賢治と学ぶ宇宙と地球の科学 ①宇宙と天体』に下記の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

該当箇所	誤	正
p.20 4～8行目	<p>この法則とケプラーの第3法則を組み合わせた計算式から、<u>惑星の質量が求められる</u>ようになりました。</p> <p>また、これらの法則は……計算することもできるようになりました。</p>	<p>この法則とケプラーの第3法則を組み合わせ、<u>惑星の公転から太陽の質量を求められる</u>ようになりました。また、<u>これらの式を衛星の公転に当てはめて、その惑星の質量も求めることができる</u>ようになりました。</p>
p.66 1行目	<p>恒星の表面温度と真の明るさ（絶対等級）</p>	<p>恒星の表面温度と真の明るさ（<u>絶対等級からわかる</u>）</p>
p.66 2つ目の式	$(\text{恒星の半径})^2 \propto \frac{(\text{恒星の表面温度})^4}{\text{恒星の明るさ}}$	$(\text{恒星の半径})^2 \propto \frac{\text{恒星の明るさ}}{(\text{恒星の表面温度})^4}$